



＝同窓会懇親会の風景＝

名誉会員である関光先生、小原澤栄子先生、嶋田晃一郎校長先生、他多くの方々のご出席をいただき、思い出深い実習室で、アットホームな雰囲気の中、和やかに懇親会が行われました。

「杏の会」に寄せて

学校長 嶋田 晃一郎

「杏の会」が創立4周年目を迎え、会員が1700名を越えるに至ったという発展に、心からお祝いを申し上げます。6月8日に催された総会には多くの先生方や会員が参加され、和やかな雰囲気の中にも若いパワーが溢れ、今後の同窓会活動が楽しみになりました。私事、平成8年4月附けで学校長を拝命いたしました。以来8か月という短期間ですので多くを語ることはできませんが、狭くて老朽化した学校で、教職員は、寸暇を惜しまず教育に情熱を傾け、学生は真面目に勉学に励んでいます。この様な真摯な雰囲気は長年見慣れた医大では感じ得なかったものがあります。

しかし、医療が高度になり専門化して行く中で医療を支える一方の柱である看護にも必然的に変化が求められます。我校の現状も多くの面で改革が必要とされ、21世紀の高度な看護を目指して、本校の教育の質と量を大きく改革する時期にきていると考えます。同窓会にも絶大なご支援をお願いする次第です。



懐かしいひととき

第1解剖学 芹澤 雅夫

思いがけず、同窓会の懇親会に参加させて戴きました。かつての先生方、生徒さん方のお顔を拝見できて本当に懐かしく、また、色々な領域で活躍しておられる会員の方々のお話を聞いて、社会の中で大きな力になっているなど頼もしく感じた次第です。外来や病棟で、私自身お世話になることが年ごとに増え、昨秋は胃の全摘手術で40日余り入院しましたが、そういう度ごとに看護してもらえらる事の有難さ、看護の仕事の大事さを身にしみて経験して来ました。

娘も看護婦7年目、この春から訪問看護を初めています。私も前任校から、獨協では1期の方々以来ずっと看護教育の一環を担当して来られて幸せです。杏の会が更に大きく成りますように。

元気を貰いました

生理学 荒井 興夫

初めて同窓会の懇親会に出席させていただき、楽しい一時を過ごすことができました。教え始めた頃の懐かしい顔に会えるかと思いましたが、実現しませんでした。尤も記憶が定かでないので声をかけてもらわなければ分からないという事もあります。というのも、あの頃背中を見せて講義をしていたきらいがあるので、お互いに顔がわからないのも当然(?) かもしれません。しかし、出席された卒業生の皆さんや先生方の活躍のお話を聞いていると、いろいろと啓発され、何か元気を貰ったような気がしました。お互いに、元気を与え、元気を貰う。そして母校を発展させていく。それが同窓会のような気がしました。これからの看護学校の発展を願ってやみません。



第4回同窓会総会並びに懇親会

同窓会事務局

平成8年6月8日(土)、多くの皆様のご理解とご支援を頂きまして、看護専門学校5番教室において第4回同窓会総会を開催致しました。前回に引き続きご出席下さいました名誉会員である関光先生、早田一子先生、また今回ご出席下さいました小原澤栄子先生との再会、また医科大学同窓会からの心のこもった祝電を頂くことができ、私たち役員にとりましても嬉しい励みとなりました。平成8年度の活動方針並びに事業案について賛同頂き、その中でも今年度は役員・運営委員・小委員および委員会の運営上の業務手順作成に力を注ぎ、同窓会運営の基盤をさらに作っていきたいと考えています。

引き続き実習室に場所を移し懇親会を行いました。今年は昨年出席した正会員からの意見を反映し、名誉・特別会員のみならず、懐かしい講師の先生方にも懇親会出席のご招待をし、また時間も2時間枠とし、楽しい語らいの場となるよう企画致しました。その成果があつてか、前年よりも出席者の数が増え、懇親会の場を懐かしむ会員の笑顔を見ることができました。ご出席下さいました関光先生、小原澤栄子先生、嶋田晃一郎先生、早田一子先生、芹澤雅夫先生、石井清先生、荒井興夫先生に、改めてこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。今後も役員一同努力して参りますので、皆様の一層のご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。

次の総会では、第3期役員を選出が行われますので、多くの正会員の参加をお待ちしております。



モクレン

第7回生 堤崎 陽子

私達7回生の記念樹は、白いやわらかい花の咲くモクレンでした。私はモクレンと同時に必ず思い出すことがあります。それは卒業アルバムです。私達の頃は作る準備をしていなかったため卒業間近に、7回生の分と先生の分を焼き増しし、メッセージを書き普通のアルバムに貼るという方法で作ったものです。作っていた時の思い出も含め、懐かしく思います。そのアルバムの中に植えたてのモクレンの木を写した写真もあり、花の咲く季節には両方を見比べ、いつも初心にかえれ、と言われているような気持ちになります。



獨協今昔物語

昭和49年7月に開院した大学病院も、22周年を迎え、地域社会の保健医療向上に貢献してきました。平成8年8月には新館が完成し、患者さんが生活しやすく、そしてスタッフが働きやすく建設されています。また、平成9年1月には総合周産期母子医療センターも活動を開始し救急医療、周産期医療など今後ますますの発展と大きな役割を担っています。現在は本館のリフォーム中であり、その完成を職員一同楽しみにしています。



卒業生の活躍

懐かしい風景

東海大学附属大磯病院婦長 小松 咲子

昭和53年Ⅱ部1回生卒業4年間3北病棟に勤務し、57年8月獨協を去りました。精神的に疲れ充電期間が必要と感じ、カナダに一人、その後現在の東海大学附属大磯病院中央手術室で12年間頑張っています。湘南海岸に近く暖かい所ですが、四季折々の変化がありません。学院時代春は、大学玄関前のつつじ・桜、秋は、銀杏並木など、懐かしく思い出しております。学院での3年間の学びで得た知識を生かし、今日の私がいることを深く感謝しております。又、世界の看護にも目を向け、2年毎に開催される世界手術室看護婦会議に参加し、学んだ知識をスタッフ育成と日々の業務に役立てています。これからも貴校の発展を心からお祈り申し上げます。



学生の熱意に支えられて

太田高等看護学校教員 富山 美佳子

私の勤務する太田高等看護学院は1学年35名定員の3年課程の看護学校です。この看護学校に勤め初めてから今年で6年目になります。学生時代は、私が教員になる事など夢にも



も思いませんでした。しかし今は、学生の「看護婦になりたい。」という熱意に支えられて、教員が勤まっている、そんな気がしています。去年は3年生の担任をして、卒業生全員の国家試験合格の知らせを頂いた時は、涙が出る程嬉しかったです。学生の頃の不勉強がたたって、毎日勉強に追われる毎日ですが、忙しさの中にも充実している喜びを感じています。

これからも学生一人一人を見つめて、共に成長できる教員を目指して努力を続けたいと思っています。(第1部9回生)

わたしとアロマテラピー

第1部2回生 佐保 弥生

私がハーブとアロマテラピーの店を始めてから4年が経ちました。最近この分野がブームになり、ちょっぴり驚いています。



昨年末にアロマテラピーの研修でロンドンに行ってきました。ホスピスでの利用の実際を見学したり、医療で利用している方からの話を伺ったりと、看護の現場でも大いに参考になるようなことがたくさんありました。今私はこの経験を、看護はもちろん、今まで私が首を突っ込んできた在宅福祉サービスの分野にも、いかにうまく取り入れていくかを模索しているところです。

そうそう、三月末に創森社から「お気に入りハーブ料理」という本を出版します。書店で見かけたらぜひ手にとってみて下さいね。

編集後記

今年の最大のニュースは、大学病院の新棟のオープンであります。ますます成長していく医療の中、卒業生の多くが活躍してきました。思い出も多く懐かしく感じられるところでしょう。同窓生の中には、他の職業や施設で活躍している方々も多く、大変うれしく思います。

来年度の同窓会では、多くの皆様にお会いすることができる事を期待しております。

同窓会誌「杏の会」第4号

発行年月日 平成9年3月12日

発行 附属看護専門学校同窓会事務局

発行責任者 事務局長 南條 珠江

編集 会誌作成委員会

〒321-02 栃木県下都賀郡壬生町北小林 880

☎0282-87-2244

印刷 (株)松井ピ・テ・オ・印刷